



## WICIジャパン「統合報告優良企業賞」の審査について

World Intellectual Capital/Assets Initiative(「世界知的資本・知的資産推進機構」以下「WICI」)の日本組織であるWICI ジャパンでは、去る11月13日に『第5回WICIジャパン「統合報告優良企業賞」の審査結果と表彰式』を公表いたしました。ここに本件審査の基準及び今後の審査方針等につき詳細を公表させていただきます。

### 1. 審査の目的

WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰審査」の目的は、事業活動実績の財務報告に事業活動の価値創造を支える見えざる経営資源を加え、事業活動における両者の関係と結びつきを簡潔・明瞭に表現することにより、ステークホルダーが当該企業の価値創造活動を一層適確に捉えられるようになる報告書の作成を促すことにあります。このような報告書が継続して提供されれば、企業とそのステークホルダーとの双方向コミュニケーションが高められ、企業の価値創造ストーリーを適確に捉えられるようになることを通して、事業体と社会の持続可能性を向上させることに繋がるものとWICIは考えております。

### 2. 審査・表彰対象

#### (1) 審査対象

「統合報告」「コーポレート レポート」「サステナビリティ レポート」「CSRレポート」「アニュアル レポート」等の名称、言語の如何を問わず、直近の最終決算期末を基準とした年次報告として、日本の上場会社が発表したものを審査対象とする。

#### (2) 表彰となる賞の種類

以下の3つの賞を設ける。それぞれの賞の詳しい基準は、前年の基準をベースに審査委員会で議論をして決定する。

- ◎ **統合報告優秀企業大賞(以下「大賞」)**・・・「統合報告優秀企業賞」に値すると評価されたものの中で特に優秀で、「統合思考経営(Integrated Thinking Management)」の実践に取り組み、その成果を簡潔明瞭に示すことにより、ステークホルダーが企業活動の将来を見通せるような報告であり、他の企業の統合報告の模範例となるもの
- ◎ **統合報告優秀企業賞(以下「優秀賞」)**・・・統合報告書としての完成度が高く、発行体の中長期の価値創造力を理解できる、財務・非財務の情報が十分に記載されており、統合報告としての重要な内容要素が織り込まれ、他の企業の統合報告の範となりうるもの
- ◎ **統合報告奨励賞(以下「奨励賞」)**・・・統合報告に求められている重要なポイント(「基本原則」・「内容要素」等)を踏まえる表現において、優秀賞には届かないものの、独自の努力・工夫等により、企業活動の実態、価値創造力が適確に捉えられる報告書であり、将来の優秀賞に該当することが期待されるもの

(3) 表彰対象(複数年連続受賞の可否)

これまで特に複数年の連続受賞について制限は設けなかったが、来年度(第6回審査)より、表彰対象として以下のルールを適用する。

- ① 優秀賞は3年連続まで受賞することができる
- ② 優秀賞を3年連続して受賞した企業は、翌2年間は優秀賞の表彰対象とはならない(但し、大賞の表彰対象にはなる)
- ③ 大賞受賞企業は、翌2年間はすべての賞の表彰対象とはならない

### 3. 審査基準

今回の第5回の審査におきましては、IIRC が 2013 年 12 月に公表した国際統合報告フレームワーク(※1 参照)、WICI が 2016 年 9 月に公表した「WICI インタングリブルズ報告フレームワーク 1.0」(※2 参照)、及び経済産業省が 2017 年 5 月に公表した「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」(※3 参照)などを参考に、WICI ジャパンが独自に作成した審査シートに基づき、それぞれ以下の一次審査、二次審査を実施し、最終審査対象企業を選定し、最終審査会において表彰企業を決定しております。

※1: <http://integratedreporting.org/resource/international-ir-framework/>

※2: [http://www.wici-global.com/framework\\_ja](http://www.wici-global.com/framework_ja)

※3: <http://www.meti.go.jp/press/2017/05/20170529003/20170529003.html>

(1) 一次審査

審査項目は 10 項目で、各審査項目を3段階で評価して、各業種別セクター内で合計点数の高い企業の統合報告書を選び、その中での定量的・定性的評価を行った。その結果、今回の審査では 20 社の統合報告書を二次審査対象企業とした。

(2) 二次審査

審査事務局が素案を作成し、審査委員会で修正・承認された「二次審査シート」(別紙)を使って、各審査委員が評価した。今回の審査では、審査対象となった 20 社について 1 社あたり審査委員 4 名が二次審査シートに基づき評価を行った。

(3) 最終審査

二次審査シートによる評価(100 点満点)をもとに、審査シート評点の実スコアおよびその偏差値スコアを勘案し、各審査委員の評価・推薦を基礎として、優秀賞、奨励賞の候補を選び、最終審査を行った。審査基準は2. (2)に掲げる各賞の要件に加えて、より具体的な基準を内部ルールとして定め、最終審査会において各賞の受賞企業を選定した。

以 上

WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」審査委員長 松島 憲之  
WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」審査事務局長 宮永 雅好